

1 情勢報告

イチゴの高設ベッドの土壌消毒技術の実演会開催



処理前の講習

イチゴの高設ベッドの土壌消毒には、クロルピクリン錠剤が使用されていますが、処理面積が限られたり、処理中に錠剤が溶ける危険性があったり、コストが高いといった短所があります。

そのため、JA土佐くろしおイチゴ部会では、7月15日にクロピクフロー処理技術の実演会を開催しました。処理の時間は、30aハウスで灌水チューブの洗浄を含めても20分程度と短かく、安全性も高かったです。

参加者からは「処理時間が早く、危険性が少なく、コスト低減ができる。液肥混入機が必要なのでレンタルで対応できないか」等の意見が出て、希望者が4名増えました。

今後、振興センターは、関係機関と連携し、実演会に参加していない農家へ情報を提供し、本技術の普及を進め、農家の労働強度の低下とコスト低減を図っていきます。

JA土佐くろしお管内の農業振興に向けて普及指導計画を検討



7月7日、JA土佐くろしお管内の農業者代表、JA土佐くろしお、園芸連、須崎市、中土佐町、津野町の委員さんに集まっていたき、第1回普及推進協議会を開催しました。振興センターから産業振興計画、普及指導計画、各課題について説明し、委員さんと意見交換等を行いました。

ミョウガの腐敗対策について、キュウリのエコシステム栽培の消費者へのPRについて、インゲンでの天敵利用技術について、野菜の農薬登録促進要望等の声や多くの意見が出されました。

振興センターでは、関係機関と連携して、これらの意見に答えるよう計画的な活動を進めていきます。

芳生野百石営農生産組合で全体会を開催



7月21日、芳生野百石営農生産組合を参集し、協業経営を円滑に行うために、米ナスを題材にして、組織体制と営農に関わる基本情報の説明を行いました。

振興センターからは、隊長を頭とした生産活動体制（栽培、作業者の手配、資材の購入等）を説明し、全員で確認しました。JAからは、系統出荷の流れ、生産履歴の記帳、生産部会のルール等を説明し、周知をはかりました。

振興センターは、今後も、関係機関と連携して、協業経営の実践を支援します。

1 情勢報告

津野山のハナニラを使った料理で消費拡大



持ち寄った料理を囲んで意見交換

ＪＡ津野山管内では「有望品目産地づくり支援事業」を活用して、ハナニラの産地化を進め、平成２２年度には生産者１３戸、栽培面積６０ａになっています。

しかし、ハナニラはまだ消費者に十分知られていないので、農協と振興センターはプロジェクトチームを立ち上げて販売促進に取り組んでいます。

７月５日には「津野山地域に來れば美味しいハナニラ料理が食べられる」ことＰＲをするため、ハナニラ生産農家、地域内の民宿などの関係者がハナニラ料理を持ち寄って試食会を開催しました。

好評だった料理のレシピを参考に民宿等でハナニラ料理を提供することになりました。

振興センターでは、今後もハナニラの産地化にむけて販促チラシの作成や販路の開拓等への支援をしていきます。

ＪＡ土佐くろしお露地シシトウ部会で現地検討会が開催



６月２９日～７月２日に、ＪＡ土佐くろしお露地シシトウ部会の現地検討会が６ヶ所で開催され、今年の気象と生育概要、今後の管理（整枝技術、かん水管理等）等について検討がなされました。

今年は、定植後の低温により生育や収穫が遅れていますが、徐々に樹勢が回復してきています。

検討会では、整枝・誘引方法に活発な質問が出され、栽培終了時まで樹高を低く保ちながら、収量の増加を目指すための方法を検討していました。

振興センターでは、今後もＪＡとともにシシトウの増収を図っていきます。